

ピオグリタゾンOD錠/錠「トーウ」 を服用される方へ

指導・監修

埼玉県立大学 保健医療福祉学部 共通教育科
教授 粟田卓也 先生

この薬の服用により、むくみ(浮腫)や体重増加があらわれたり、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。
特に心臓の病気をお持ちの方は注意してください。

| | |
|-------------|---|
| むくみ (浮腫) | むくみ(浮腫)のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫ればったくなるなどの症状があらわれることがあります。 |
| 体重増加 | 体重の増加があらわれることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。 |
| 息切れ、 動悸 | 労作時に息が切れたり、動悸がする(心臓がどきどきする)などの症状があらわれることがあります。 症状が進行すると、安静にしてもこのような症状があらわれことがあります。 |

これらのような症状は、この薬の服用を始めてから早期にあらわれることがあります。
これらの症状に気づいた場合は、この薬の服用を中止し、主治医に相談してください。

血糖値を下げる糖尿病の薬が処方されています。

以下の点に注意してください。

また、この注意は、必ず家族やまわりの方にも知らせてください。

低血糖症状を起こすことがあります。

- 単独の使用で低血糖症状を起こすことはあまりありませんが、この薬とほかの糖尿病の薬(血糖を下げる薬)を併用した場合に低血糖症状を起こしやすくなります。
- とくにインスリンとの併用で多くなることが報告されています。
- 低血糖症状が起った場合は、がまんせずに早めに糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとってください。ただし、 α -グルコシダーゼ阻害剤(ボグリボースやアカルボース、ミグリトール)などの糖分の吸収を遅らせる薬剤を併用している場合には、必ずブドウ糖をお飲みください。
- 高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

低血糖症状やけん怠感、吐き気、食欲不振、むくみなど、この薬を飲んで不快な症状が気になる場合は主治医に相談してください。

低血糖症状について

●低血糖症状とは

血液中の糖分が少くなりすぎた状態です。

症状は、「冷や汗ができる」、「気持ちが悪くなる」、「急に強い空腹感をおぼえる」、「動悸がする」、「手足がふるえる」、「目がちらつく」、「ぼんやりする」、「ふらつく」、「力の抜けた感じがする」、「頭が痛くなる」などや「いつもと人柄の違ったような異常な行動をとる」、「わけのわからぬいことを言う」、はなはだしい場合には「意識を失う」、「けいれんを起こす」こともあります。



●低血糖症状が起きたら

低血糖症状になっても軽いうちは糖分を食べると治まります。

平素から糖分(砂糖、ブドウ糖)などを持ち歩き、すぐその場でとることが必要です。

ただし、 α -グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合には必ずブドウ糖をとってください。

●低血糖症状を起さないために

- ・薬の量や飲み方は主治医又は薬剤師の指導を守り、また食事療法や運動療法もきちんと守ってください。
- ・食事時刻の遅れ、激しい運動、空腹時の運動は避けましょう。

その他、下記の点に注意してください。

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- 膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は主治医に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状が見られた場合には、主治医に相談してください。
 - ・血尿　尿が赤くなることがあります(痛みを伴わない場合が多い)。
 - ・頻尿　排尿の回数が多くなる場合があります。
 - ・排尿痛　急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。
- くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

OD錠を服用される方へ

この薬は水なしでも飲むことができる口腔内崩壊錠(OD錠)です。

- 舌の上で唾液を含ませ軽くつぶしてから、唾液と一緒に飲み込んでください。水なしで飲むときは、寝たままで飲まないでください。
- 普通の薬と同様に、水またはぬるま湯で飲むこともできます。
- どちらの飲み方でも効き目は変わりません。